

城下町形成期の景観復元 ー開府前の松江ー

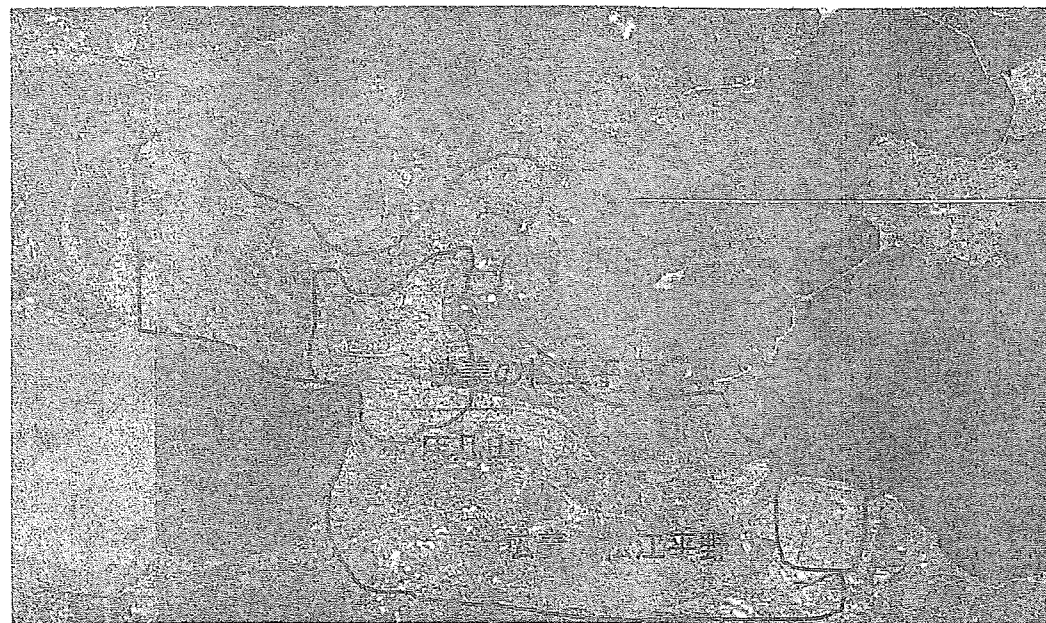
渡 辺 正 巳

(文化財調査コンサルタント株式会社

・島大汽水研 客員研究員)

2014.08.23 松江市総合文化センター

1-1.松江平野と松江城下町

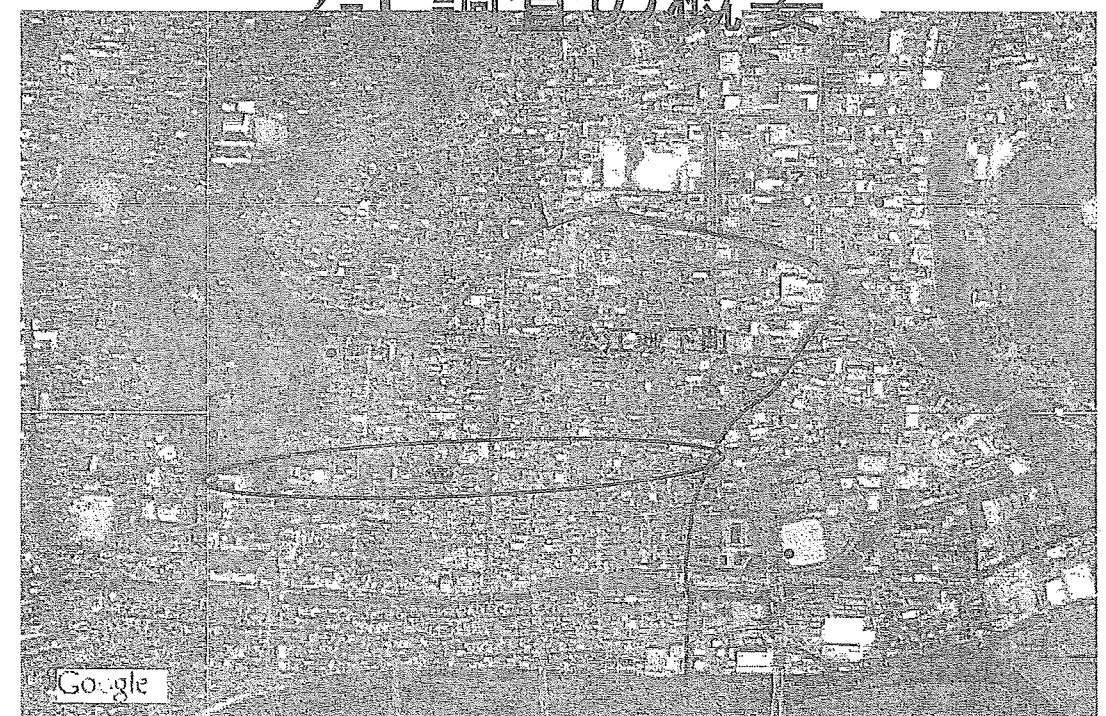


Google マップからダウンロード

1-2.床几山からの眺望

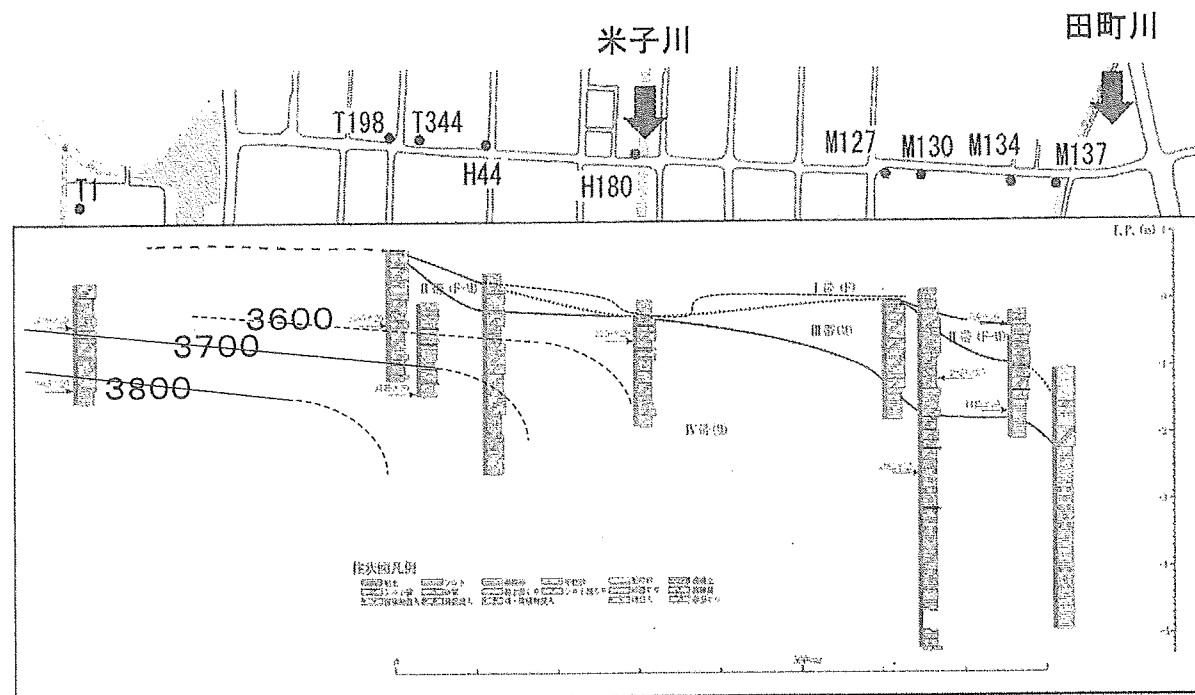


2-1 調査の概要



Google マップからダウンロード

3-3.地質断面図



3-4.城下町以前の景観(2)

■ 造成以前(Ⅰ帯の時期)

田町の南東部では淡水の沼沢湿地が広がり、ガマ類やアシ類、カヤツリグサ類、セリ類などが生い茂っていた。また、所によってフサモが繁茂していた。母衣町～田町の一部では水田耕作が行われていたと考えられる。

丘陵にはアカマツ林、コナラ林が主に分布した。北東部の丘陵に比べ、コナラ林がやや優勢であった。

3-4.城下町以前の景観(1)

■ 縄文時代後期頃(Ⅳ帯の時期)

宍道湖の湖底であった。この時期の末頃には、砂州が発達して宍道湖と切り離され、淡水化した可能性もある。

丘陵にはカシ林が、谷筋にはスギ林が分布した。